様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １６ 日現在

機関番号：８５４０６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ０２４０５

研究課題名（和文）ソヴィエト文化における視聴覚メディアと文学テクスト

研究課題名（英文）Audio-Visual Media and Literature in Soviet Culture

研究代表者
大森　雅子（Omori, Masako）

海上保安大学校（国際海洋政策研究センター）・国際海洋政策研究センター・准教授

研究者番号：９０７４９１５２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ロシア革命後から冷戦期までの視聴覚メディア（映画、プロパガンダ・ポスター、風刺雑誌の風刺画、ラジオ、大衆歌）とソ連文学における間テクスト性について、メディア論や文化社会学のアプローチで総合的に分析することによって、20世紀ロシア文化史における新たな視座を提示することを目的とする。視聴覚メディアにおいて表象された「敵」や「味方」のイメージを時代ごとに分析し、それらが同時代の文学テクストに与えた影響や、視聴覚メディアで表象された「公式」のイメージが生成・受容された文学的・文化的・社会的背景について明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
従来のロシア・ソ連文化史研究においては、ロシア革命後に急速に発展した視聴覚メディアとソ連の文学テクストとの相互関係性について、十分に研究が進んでいなかったが、本研究によって両者の間テクスト性を具体的に提示することができた。特に、「ハイカルチャー」と見なされてきたソ連の文学作品が、同時代の大衆文化の諸相との関係性の中で創作された過程について新たな見解を提示できたこと、そして、当時の視聴覚メディアの研究において、「公式」／「非公式」の図式には収まりきらないイメージ表象と受容のあり方を明らかにできたことは、ロシア文化史研究及びメディア研究全般において、学術的な意義があったと考えている。

研究成果の概要（英文）：A purpose of this study is to analyze the intertextuality between Soviet literature and audio-visual media(films, caricatures of satirical magazines, propaganda posters, radio, popular songs) from the post-revolutionary period to Cold war period and to present the new understanding of Russian cultural history of the 20th century on the basis of media theory and cultural sociology. In this study I examined the image of "friend" and "foe" in Soviet media and clarified the impact of audio-visual media on Soviet literature. Also, I revealed the literal, cultural and social context where the "official" images in Soviet media were formed and received in mass culture.

研究分野：20世紀ロシア文学・ロシア文化

キーワード：メディア文化　ソ連文化　プロパガンダ・ポスター　風刺画　ラジオ　マヤコフスキー　ブルガーコフ　マルシャーク

１．研究開始当初の背景

本研究代表者は、20 世紀ロシア文学・文化を専門とし、これまで、特にミハイル・ブルガーコフの作品研究について、文化社会学的観点から行ってきた。本研究課題に取り組む前には、「非公式」の作家ブルガーコフの作品の中に、同時代の公的な反宗教プロパガンダの言説や絵入りの風刺雑誌の引用や変形が見られることを明らかにし、そこから社会的人間としてのブルガーコフの新たな作家像を提示した。また、アレクサンドル・クプリンの文学作品を論じる際に、同時代の日露戦争に関する風刺画を比較検討し、当時の視覚メディアが文学テクストに及ぼした影響を明らかにした。

上記の研究の過程で、ロシア革命後に急速に発展した国内のメディア文化が、いかに文学テクストの生成に関わったかという問題について、より広い観点から研究する必要性を認識した。文学テクストと視覚メディアとの関連性に着目する研究は、ロシア文学史や文化史研究において十分に進んでいるとは言えない。また、これまでの研究代表者の研究においては、視覚メディアの中でも、風刺雑誌の風刺画に限定していたため、ラジオや大衆歌といった聴覚メディアを視野に入れた分析が抜け落ちていた。そのため、本研究課題においては、これまでの研究成果をもとに、文学テクストと視聴覚メディア文化の相互関係における間テクスト性を分析することにした。

２．研究の目的

上記の研究状況を踏まえて、視聴覚メディアが急速に発展したロシア革命後から 1930 年代、そして第二次世界大戦を経て、冷戦期までを対象とした研究に取り組むことにした。視覚的なメディア（映画、プロパガンダ・ポスター、風刺雑誌の風刺画、児童文学の挿絵）の他、聴覚的なメディア（ラジオ、大衆歌）が同時代の文学テクスト生成に果たした役割を考察し、20 世紀ロシア文化史に対する新たな視座を獲得することを目的とする。その際、メディア論や文化社会学の観点から総合的に分析することで、これまで「ハイカルチャー」と見なされてきた文学作品が、大衆文化の諸相との関係性の中で創作されていった過程を明らかにする。また、視聴覚メディアに現れる「敵」や「味方」のイメージが、同時代の文学テクストや古典文学作品・翻訳作品の借用を通して生成・受容された文化的・社会的背景について考察する。

３．研究の方法

本研究では、ソ連文学とメディア文化の関係性を分析するにあたって、以下の 3 つの時代に区切り、20 世紀ロシア文化史における文学と大衆文化の位置づけを試みる。

（１）ロシア革命後から 1930 年代ソ連文学に見られるメディア文化の影響

「ロスタの窓」のニュースポスターや、1920 年代ネップ（新経済政策）期における映画、プロパガンダ・ポスター、広告のスローガン、風刺雑誌の記事や新聞・雑誌の風刺画を収集し、代表的な登場人物と事象ごとに「敵」と「味方」のイメージの特徴を整理する。また、1920 年代から 30 年代のソ連のラジオ放送の実態を調査した上で、それらが同時代の文学テクストにどのように反映されていたかを明らかにすべく、フレーブニコフ、マヤコフスキイ、ザミャーチン、ブルガーコフ、カターエフの諸作品を取り上げ、テクスト分析を行う。

（２）1930 年代から 40 年代のマスメディアと文学テクスト

1938 年の張鼓峰事件や 39 年のノモンハン事件等、日本とソ連の間で国境紛争が頻繁に起こっていたこの時期、ソ連の新聞や雑誌には、日本を風刺する風刺画がしばしば掲載された。そこで、1930 年代から 45 年までのソ連のメディア文化における日本のイメージについて、大祖国戦争期（1941-45）のヒトラー表象も視野に入れながら、分析を行う。新聞『プラウダ』や『イズヴェスチヤ』のほか、イラスト入り風刺雑誌に掲載された風刺画と報道写真を収集し、1930 年代から 1945 年までのソ連において、日本のイメージにどのような変化が見られるか、日露戦争時のロシアにおける日本表象との比較分析を行いつつ考察する。また、日本に関する風刺詩と大衆歌について取り上げ、この時期に、文学テクストが視聴覚メディアといかなる接点を持ちえたか、分析する。

（３）　冷戦期の反米・反日プロパガンダにおける文学テクスト

冷戦期の代表的な風刺雑誌『鰐』の風刺画に注目し、アメリカや西側諸国、日本がどのように描かれているか、反米プロパガンダと核兵器表象に着目しながら調査を行う。特に、上記（２）の研究で取り上げた日本表象と比較することで、冷戦期の日本のイメージの特徴を明らかにし、そこにどのような文学テクストの間テクスト性が見られるか、考察を行う。また、「公式」のイデオロギーとしての反米・反日プロパガンダが、当時のラジオ文化を通していかに受容されたか、明らかにする。

４．研究成果

（１）の研究成果のうち、ロシア革命後のプロパガンダと文学テクストの相関性に関する研究は、モスクワ大学ジャーナリズム学部及びモスクワ大学文学部で開催された国際学会において

ロシア語で口頭発表したほか、同大学の紀要にロシア語論文を投稿した。
　ロシア革命後から 1930 年代までのラジオ文化の多様性と文学テクストの関係性については、ロシア語の論文としてまとめ、アルメニアのエレヴァンで刊行された論集『ミハイル・ブルガーコフ　ロシア文学と国民文学』に掲載された。
　また、ブルガーコフ作品における視覚メディアの研究の一環として、ブルガーコフの故郷キエフに縁がある宗教画とブルガーコフの代表作『巨匠とマルガリータ』の創作との関わりについて考察を行った。この成果については、2017 年 11 月に東京外国語大学で開催された国際シンポジウムで報告を行った。その後、シンポジウムでの議論を踏まえて、論文を発表した。
　その他、ブルガーコフに関する研究成果として、2014 年に刊行された研究代表者の単著『時空間を打破する　ミハイル・ブルガーコフ論』に関するエッセイを『季刊 iichiko』に寄稿した。また、2017 年に東洋書店新社より出版された『新装版ブルガーコフ戯曲集』（共訳）では、2 作品の翻訳と解題を担当した。さらに、ミハイル・ブルガーコフの作品研究として、ウクライナの哲学者スコヴォロダーの哲学思想のメタテクスト性についてロシア語で論文をまとめ、ロシア国立人文大学のマゴメードワ教授 70 周年論集に寄稿した。

（２）の研究では、1930 年代から 40 年代ソ連のメディアにおける日本のイメージを考察した。ヒトラー表象との比較の他、当時のソ連の中国に対するオリエンタリズムのまなざしや、アメリカの反日プロパガンダとの比較を通して、この時期のソ連における日本表象の特性について論じた。また、ソ連における風刺画と報道写真の相互関係性を分析し、当時のメディアにおける写真と肖像画の美学を明らかにした。以上の研究を英語の論文にまとめ、東京外国語大学外国語学部の紀要『スラヴ文化研究』に発表した。また、大祖国戦争期のメディア文化と文学テクストの関係性について、主に児童文学作家のマルシャークのテクストに絞って分析を行った。1930 年代から独ソ戦期(1941-45)における彼の風刺詩が、当時の視聴覚メディアでいかに取り上げられ､マルシャークの創作活動全体の中にどのように位置づけられるか考察を行った。この研究成果の一部については、2018 年 12 月 2 日に大阪大学で開催されたシンポジウム「朝日会館と京阪神モダニズム―戦前・戦中・戦後―」の中で報告を行った。現在、論文を執筆中である。

（３）の研究では、ソ連時代に多くの読者に読まれていた風刺雑誌『鰐』を取り上げ、風刺画の中で日本がどのように表象されていたかという点について、冷戦期のソ連で出版されていた日本に関するエッセイや日本文学の翻訳作品との間テクスト性に着目して考察した。また、当時のソ連の人々が、日本に関係する風刺的言説や風刺画をどのように受容していたか、文化社会学的観点から分析した。この研究成果については、2018 年 2 月 14 日にロシア国立人文大学の国際学会「日本の歴史と文化」においてロシア語で報告を行い、学会報告論集に投稿した。
　また、本研究課題の派生的な研究として、作家ソルジェニーツィンについて、1980 年代日本のメディアにおける彼のイメージ形成とその受容を考察し、ロシア語論文「ソルジェニーツィンと日本」を執筆した。この成果は、アルメニアのエレヴァンの学会誌『ソルジェニーツィン：ロシア文学と国民文学』に掲載された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 9 件）

① ОМОРИ Масако. Философский контекст романа "Мастер и Маргарита" (М. А. Булгаков и Г.С. Сковорода) // Сборник, посвященный 70-летию профессора Д. М. Магомедовой. 2019. 印刷中（査読無）
（大森雅子　「小説『巨匠とマルガリータ』の哲学的コンテクスト（M. A. ブルガーコフと G. S. スコヴォロダー」『D. M. マゴメードワ教授 70 歳記念論集』）
② ОМОРИ Масако. Солженицын и Япония // А. И. Солженицын: Русская и национальная литературы. 2018. С. 406-419.（査読無）
（大森雅子「ソルジェニーツィンと日本」『A. I. ソルジェニーツィン：ロシア文学と国民文学』）
③ ОМОРИ Масако. Образ Японии в сатирическом журнале «Крокодил» в период «холодной войны» // История и культура Японии. 2018. С. 351-359.（査読無）
（大森雅子「冷戦期の風刺雑誌『鰐』における日本のイメージ」『日本の歴史と文化』）
④ 大森雅子「ミハイル・ブルガーコフの「まち」―作家の原点としてのキエフ―」『国際シンポジウム「文化の汽水域～東スラヴ世界の文化的諸相をめぐって～」報告集』、2017 年、14-26 頁。（査読無）
⑤ ОМОРИ Масако. Перцепция радио в творчестве М. А. Булгакова в контексте советской культуры 1920-30-х годов // М. А. Булгаков: Русская и национальные литературы. 2017. С. 399-408. （査読有）
（大森雅子「1920 年代から 30 年代のソ連文化のコンテクストから見た M. A. ブルガーコ

フ作品におけるラジオ受容」『M. A. ブルガーコフ：ロシアと国民文学』）

⑥ OMORI Masako. The Image of the Japanese in Soviet Media Culture: From the late 1930s to 1945. 『スラヴ文化研究』 第 14 号、2017 年、62-71 頁。（査読有）

⑦ 大森雅子「自著を語る ブルガーコフの生涯と『巨匠とマルガリータ』の謎に迫る：『時空間を打破する―ミハイル・ブルガーコフ論』」『季刊 iichiko 』 第 127 号、2017 年、 125-127 頁。（査読無）

⑧ ОМОРИ Масако. Пропаганда послереволюционного периода в произведениях М. А. Булгакова // Русская литература и журналистика в движении времени. Ежегодник кафедры истории русской литературы и журналистики факультета журналистики МГУ им. М. В. Ломоносова. 2016. Часть 2. 2017. С. 222-229.（査読無）
（大森雅子「M. A. ブルガーコフの作品におけるロシア革命後のプロパガンダ」『時代の流れの中のロシア文学とジャーナリズム　モスクワ大学ジャーナリズム学部ロシア文学史とジャーナリズム講座　年報』）

⑨ ОМОРИ Масако. Советская сатирическая журналистика 1920-х годов в романе М. А. Булгакова «Мастер и Маргарита» // Русская литература XX-XXI веков как единый процесс. 2016.　239-241.（査読無）
（大森雅子「M. A. ブルガーコフの小説『巨匠とマルガリータ』における 1920 年代のソ連の風刺雑誌」『単一プロセスとしての 20～21 世紀ロシア文学』）

〔学会発表〕（計 5 件）

① 大森雅子「朝日会館におけるロシア文化の受容―演劇と美術を中心に」、シンポジウム「朝日会館と京阪神モダニズム―戦前・戦中・戦後―」2018 年 12 月 2 日（大阪大学）

② ОМОРИ Масако. Образ Японии в сатирическом журнале «Крокодил» в период «холодной войны». История и культура Японии. 2018 年 2 月 14 日（ロシア国立研究大学高等経済学院）
（大森雅子「冷戦期の風刺雑誌『鰐』における日本のイメージ」、国際学会「日本の歴史と文化」）

③ 大森雅子「ミハイル・ブルガーコフの「まち」―作家の原点としてのキエフ―」、国際シンポジウム「文化の汽水域～東スラヴ世界の文化的諸相をめぐって～」 2017 年 11 月 1 日（東京外国語大学総合文化研究所）

④ ОМОРИ Масако. Послереволюционная пропаганда в произведениях М. А. Булгакова. Журналистика в 2015 году : информационный потенциал общества и ресурсы медиасистемы. 2016 年 2 月 5 日（モスクワ国立大学）
（大森雅子「M. A. ブルガーコフの作品におけるロシア革命後のプロパガンダ」、国際学会「2015 年のジャーナリズム：社会の情報潜在力とメディアシステムの源」）

⑤ ОМОРИ Масако. Советская сатирическая журналистика 1920-х годов в романе М. А. Булгакова «Мастер и Маргарита». Русская литература XX-XXI веков как единый процесс. 2016 年 12 月 8 日（モスクワ国立大学）
（大森雅子「M. A. ブルガーコフの小説『巨匠とマルガリータ』における 1920 年代のソ連の風刺雑誌」、国際学会「単一プロセスとしての 20～21 世紀ロシア文学』）」）

〔図書〕（計 4 件）

① ミハイル・ブルガーコフ『赤紫の島』、村田真一監訳、秋月準也・大森雅子訳『新装版ブルガーコフ戯曲集１』東洋書店新社、2017 年、179-332 頁。

② 大森雅子「『赤紫の島』解題」、村田真一監訳、秋月準也・大森雅子訳『新装版ブルガーコフ戯曲集１』東洋書店新社、2017 年、333-352 頁。（査読無）

③ ミハイル・ブルガーコフ『アダムとイヴ』、村田真一監訳、大森雅子・佐藤貴之訳『新装版ブルガーコフ戯曲集２』東洋書店新社 、2017 年、5-124 頁。

④ 大森雅子「『アダムとイヴ』解題」、村田真一監訳、大森雅子・佐藤貴之訳『新装版ブルガーコフ戯曲集２』東洋書店新社 、2017 年、125-145 頁。（査読無）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：
ローマ字氏名：
所属研究機関名：
部局名：
職名：
研究者番号（8 桁）：

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。